

「風習」とは？

おはようございます。

今日は、「風習」というお話をしたいと思います。

風習とは、その地方や国で、人々が長年にわたって伝えてきた生活や行事の「ならわし」や「しきたり」、「風俗習慣」のことを言います。日本には春・夏・秋・冬という四季があり、その時々には様々な風習があります。

日本は戦後65年が過ぎ、経済的に急成長しはじめたころから日本の生活習慣が欧米化、すなわちアメリカやヨーロッパのような生活スタイルが主流となってきました。それに伴って日本の良き風習がなくなったり、形を変えてきたりして、日本らしさや良き伝統が少しずつ失われてきているようにも思います。もちろん、人を傷つけたり、人に害を加えるような悪い風習はなくした方がいいと思いますが、私たちが継承して残していった方がいいなと思われるものや日本の歴史的・文化的にも価値のあるものがあるのではないのでしょうか。

先週、冬休み明けの朝礼で、「春の海」という本来は尺八とお琴で演奏される曲の一部をフルートで演奏しましたが、日本のお正月の雰囲気を感じさせてくれるものだと思います。特に1月（正月）には、この日本らしさを感じさせてくれる伝統的な風習がたくさんあります。例えば、一年の無事を祈って初詣に出かける、一年間お世話になった人たちへ年賀状をだす、年の始めに書き初めをする、百人一首やかるた遊びをする、お餅を入れた雑煮やおせち料理、七草がゆを食べるなどです。

学校内には今、冬休みの宿題の書き初めが教室内に掲示してあります。また、各学年での百人一首大会が企画されているようです。

これからの日本は、みなさんの手によって政治・経済・文化など様々な面からますます発展していかねばなりません。この日本らしさを感じさせてくれる良き風習も守って行ってほしいと思います。

さて、話は変わりますが、今日は、16年前、たくさんのケガ人と6千数百名の命が失われた阪神淡路大震災の発生した日です。この地震により建物が倒壊したと同時にたくさんの火災が発生しました。あの惨状と整然たる人々の支え合いは、この先も語り継ぎ、忘れてはならないと思います。本日3時から火災が発生したという想定で避難訓練があります。いつも言われることですが、地震国日本としてはいつ阪神淡路大震災のような大きな地震が発生し火災が起きてもおかしくありません。避難訓練は「本番は練習のように、練習は本番のように」を合い言葉に真剣に取り組んで下さい。